

第四銀行本店

所在地 新潟県新潟市
建物用途 銀行
竣工 1962年
改修 1992年
所有者 株式会社第四銀行
設計者 清水建設株式会社
施工者 清水建設株式会社 大成建設株式会社
鹿島建設株式会社 株式会社福田組
株式会社本間組 株式会社加賀田組
第一建設工業株式会社 丸運建設株式会社



〈審査評〉新潟市の中心、桜谷小路と東堀前通りの交差する角に建つ第四銀行は、長い伝統を持つ新潟のファーストバンクであり、昭和37年に建設された旧本館は黒御影石とステンレスサッシで構成された外装を持つ建物で、今回のリニューアルまで、新潟市のシンボリックな存在として、市民に長く親しまれてきた建物である。今回の旧本館を含めたりニューアル及び新館増築の計画は、旧本館北側の敷地の取得を契機に始められた創立120周年記念事業として位置付けられ、旧本館のフレームを残しながら、その北側に12階建の新本館とホール棟を増築する計画であった。12階建の新本館には、新本部棟として周辺に分散していた本部機能をまとめ、ホール棟は300人収容の市民に開放された「だいしホール」と第四銀行の歴史を展示した「だいし資料室」で構成され、銀行と市民との接点を構成している。

最初にこの作品をみた印象としては、何処が旧本館をリニューアルした箇所、何処が新しく増築した箇所か見分けが全くつかない点に、審査員としてはとまどいを覚えた。しかし、旧本館の図面とみくらべて説明を聞くうちに、プランニングの点で、市民の頭のなかに染み付いている旧本館に対するイメージを、動線の記憶の中に活かす努力が最大限に行われ、かつて、東堀前通りに面していた旧本部のアプローチのイメージを平面計画の中で活かすために、大きな努力が払われていることが理解できた。

このアプローチに無理なく人を誘導しているのは、本部玄関から2階の本部ロビーへ誘導する、光庭を取り込んだ明るい階段であり、また、2階に設定した本部ロビーの広々とした設定である。今回の全体配置図の中では、やや無理があると思われる本部棟へのアプローチを納得できるものとして、旧本館の設定を活かした手法は、好ましく、巧みな物であると評価してよい。

外観についても、旧本館のイメージに必ずしも捕われず、新館を含めて一体として新しい外観を構成しているが、外観の作り方としては新潟の風土と周囲の環境によく配慮した設計がなされて、新しい新潟の町並みの中でランドマークとなりうる外観を構成している点で成功したと考えられる。

また、高層の新本館を建設することによって得られた平面的な余裕を、ホール棟として地元の市民のための文化施設に開放された行為は、この本店を街の文化的な中心と位置付けようとする建築主である第四銀行の努力として高く評価される。

BELCA の BRB 部門の審査対象として、このように旧本館のストラクチャーだけを残し、外観についても既存の外観を直接的には全く残していないリフォームについて、対象とすべきか議論のあるところであるが、アプローチの記憶を残し、それを新しいプランニングの上でプラスに活かす展開をしたことと、新しい外観の構成が町並みに良く溶け込んでいることを積極的な意味で評価し、このような取り組み方も古い建物と取り組んだりリフォームの在り方の一つの可能性として評価したい。